

留学報告書

北海道教育大学札幌校 国語教育専攻4年 6165 辻野友哉

中華人民共和国 瀋陽師範大学

「必要なのは鉄の意志」

2018年9月～2019年7月まで、私は中華人民共和国の瀋陽師範大学に留学しました。留学をするにあたり、なるべく前知識を持たないで、あるがままを見ようと思い、ほとんど何も準備をしないで望みました。その結果、見事に苦労しました。何も話せない、どうやって物を買ったらいいか分からない、そもそも携帯が繋がらないなど、散々でした。しかし、留学を終えた今、非常に良い経験をしたと思っています。何も知らなかったからこそ、より心に刻むことができたと思います。

とは言いましたが、最初の一ヶ月間は本当に地獄でした。食べ物は合わずにお腹を壊し、ルームメイトとの生活感の違いにイライラし、何を言っているか分からないなど、挙げ句の果てにはホームシックになり、何度か親に泣きつきました。特にルームメイトとの生活にイライラしていました。家族以外に初めて誰かと生活を共にすることになり、多少の違いは仕方ないと思っていましたが、まさかのエジプト人だったため、想像以上の違いに振り回されました。幸か不幸か、文化の違いをこれでもかと感じる経験になりました。文化や慣習の違いに対して、非常に寛容になりました。留学をしなければここまで染みつかなかっただろうと思います。

このままだと、何か悪いイメージしかないと思います。そこで私が一番驚いたことを紹介します。それは、優しい人が非常に多いということです。発音が悪くて何を言っているか分からなくても諦めずに聞き取ろうとしてくれ、私が聞き取れない場合はゆっくり優しい単語で話してくれました。それだけで優しいかと疑問に思う人もいるかもしれませんが、私には非常に助かったため、心にそれだけ残っています。非常に気さくな方が多く、なんとなくの偏見を持っていたことが恥ずかしくなりました。実際に接してみないと分からないことを学びました。

話は変わりますが、タイトルの回収をしたいと思います。電車マナーや自動車の運転、食べ物などは日本と大きく異なります。日本のマナーが細かすぎると中国人以外にも言われました。日本のマナーは世界レベルで細かいのと学びました。その影響か、日本人と言うだけで、どの国の人も友好的に接してくれました。「日本」というブランドがあるのだと実感しましたが、「日本人は話さない」という印象が彼らにはあり、自分から積極的に話さなければならぬという世界を体感することもできました。しかし、これだけではタイトルの回収というには弱いですね。私が「日本人」と一番実感したのは、食べ物でした。基本的には大差はありません、お米もパンもあります。ただ、味噌汁はどこにもありませんでした。

味噌汁を飲んだときの安心感は筆舌に尽くしがたい程でした。幼い頃から食べ育ったものが、ここまで精神に影響するという事を学びました。特に、蚕のサナギを食べることが大変でした。日本でも一部の人は食べるため、厳密には日本人を実感したことにはならないのですが、私は強くギャップを感じました。

これから留学する皆さんに伝えたいことは、「思ったよりもなんとかなる」ということです。言葉が分からなくても魂とジェスチャーで伝わりますし、食べ物も慣れてしまえばお腹を壊すこともなくなりますし、異なる生活習慣を持つ人とも暮らせるようになります。ただし、これらはすべて「受動的」であり、留学すれば誰でも経験できることです。これだけでも十分な経験と学びになりますが、よりよい留学にするためには「能動的」になる必要があります。例えば、旅行です。私は世界遺産に興味があったため、世界遺産を何カ所か旅行しました。教科書にある写真そのままの光景であることに感動することもさながらですが、旅行先ならではの文化があったりして、同じ国でも違うということが実感できました。

また、現地にいる日本人と繋がりを持つことも大切です。私の場合、現地の日本人日本語講師のところに居候したり、その人の職場でアルバイトしたり、いろいろな国の人が集まるバドミントンサークルで何度もご飯を奢ってもらったりと、多くの人にかわいがってもらいました。そのような環境にいたため、色々な場所に連れて行ってくれました。そこで学んだこともたくさんありました。しかし、日本人と仲良くしすぎると言語の練習にはなりませんので、注意してください。

最後になりますが、もし留学するか迷っている方がいるなら私はこう言います。「迷うくらいなら行かない方がいい」と。ほとんどの留学経験者は「留学は良かった」「是非行ってください」と言いますが、なかには留学が嫌で「行かなくても良い」と言う人もいるでしょう。あくまで偏見ですが、嫌になるかならないかは、どれだけ留学に対して気持ちを持っているかにかかっていると思っています。そのため、迷うくらいなら行かない方がいいでしょう、きっと嫌なことばかりに目が向いてしまいますから。留学中は嫌なことが必ずあります。それでも気持ちを強く持てる人が留学を楽しめると思います。しかし、留学を迷うのは仕方ありません。お金がどのくらいかかるのか分からない、生活していけるのか分からない、言語能力が上がるのか分からない、といった懸念があるでしょう。はっきり言いますが、どれもできます。お金は日本で稼げばいいです、生活していけます、言語能力は上がります。私は留学することを迷ったことはなく、留学中に迷うこともなかったため、自信を持って良かったと言えます。ただ、最高とは言えません。なぜなら、私は言っているほど強い気持ちで留学したわけではないため、得られた学びはそこまで大きくなかったと後悔しているからです。皆さんには同じ失敗を繰り返して欲しくなくてこのレポートを書きました。皆さんは迷わないでください、そして強い気持ちを持ってください。そうすれば、きっと最高の留学になります。皆さんの留学が良いものになることを心から願っています。



右から7番目の眼鏡が私です。バドミントンサークルの交流試合で、北京で戦いました。



一番前のチェックシャツの眼鏡が私です。各国の料理を出し合う国際イベントで、クラスメイトのインド人とヨルダン人と撮ったものです。ちなみに日本はお汁粉を出しました。